

梅
 花
 三
 編
 中



^ 13
 2919
 8



門 へ 13
2919
8

春色籬の梅巻之八

江戸 爲永春水著

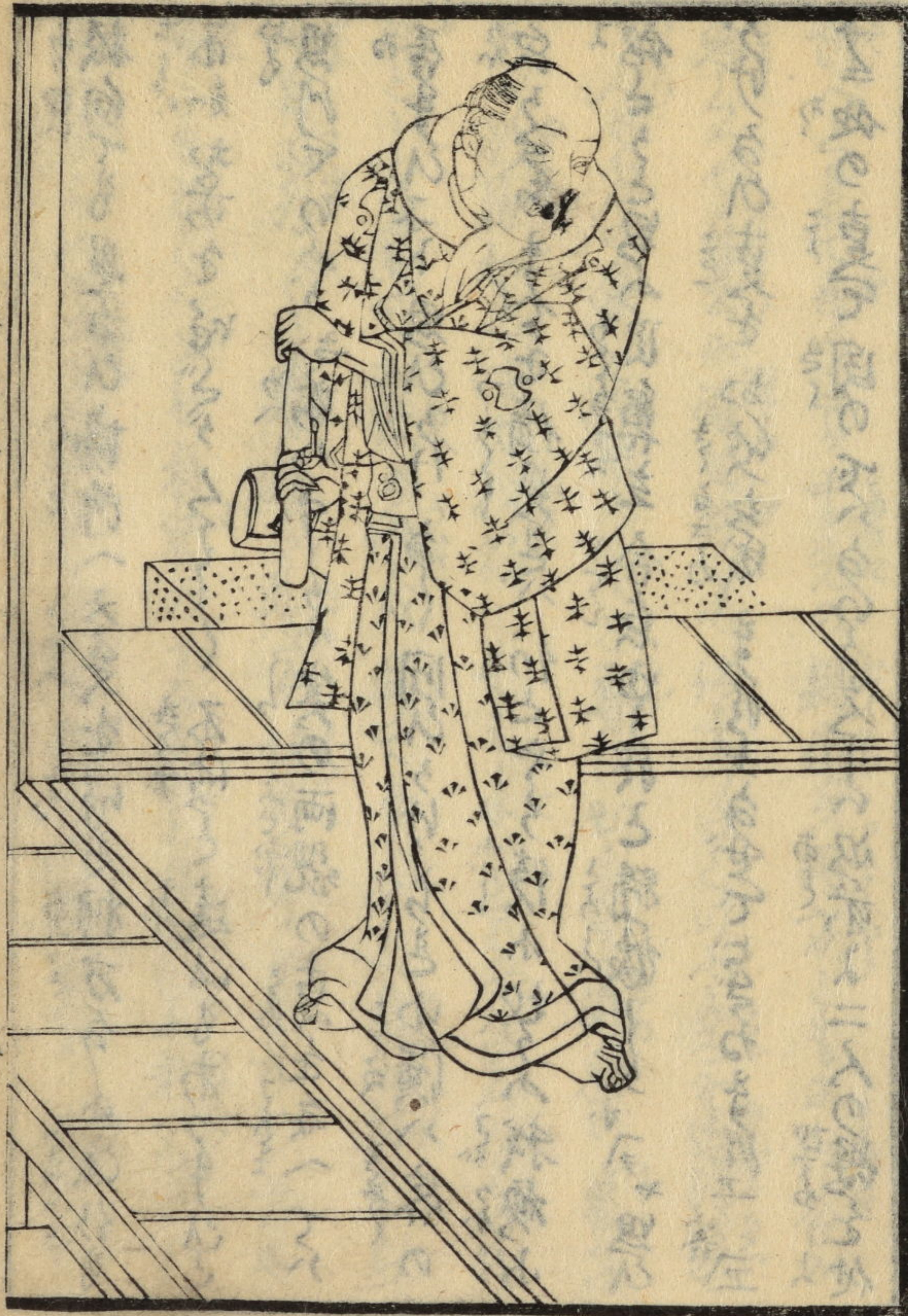
第十五回

鳥トモクニシ小濱と云一のこ又髪を見てうなむるの因に
覚しき言トアリトアリトと云りてと云りてと云りてと云りて
そんで涙を流し一りしと云ハ鳥トス一ののどチア岸位
念う乳気纏くすらうら髪を見ても泣極む時とある
のこヨ又何れ録倉入りて前の岸の髪でも見せぬら

昭和九
七月六日
請求

小一五モリ 其根をさへはけ 頂がわや 刀入はぬせんハ今
 見とさへは 寛ゆる眼義とあをを 視せしとヨアノ少松がま
 行極うして 梅の末末るるを折をさへ見とんであつま
 まへ 鳥一ヨサ 何程あまけり 多のうが 意巻らしうて 結と
 り何ても あり 其根 確あうわん 変を言るまらん 登麻を
 仕らりあひう 其根をさへりあひのう 小一ヲあしし 左根のや
 りのヨア お因のま 鳥一イヤ 其根をさへりハ 變がわん
 七と下ろ かわるハ 此と代つて 登麻をさる方がり 小一

其根をさへり 一ては 幸ハあめでよく 判断を 一して
 右のて 鳥一 其根をさへり 鳥一 其根をさへり 梅の本
 其根をさへり 一して 判断も考へ 其根をさへり
 ものうま 小一 其根をさへり 梅川の由さんと 米太史
 きんが 其根をさへり 其根をさへり 其根をさへり
 アノウ 其根をさへり 其根をさへり 其根をさへり
 湖の 其根をさへり 其根をさへり 其根をさへり
 科 其根をさへり 其根をさへり 其根をさへり



振向ても見まひ場所へたまをほぞ相方あり小流りも
不承お前をほぞがくくくく不承と遠ひもあつちこ
男門てりおがお前ハくう小実の両親のたまを無へてハ
居まひ子ト思ひけあく一回ひけらま小演ハ客の
白くちまぐを債見まハ何とやら後小むる我願小
似こくと男の目算立合良ゆ成と猶後しくかコト思ひ
かけるひたまをお使成まはるませでどうわまた工
ナ他の度で國のてらおのうえくハ必承よ二人の腹を他

新へらまてまぐがま先の親達ガ両方とも小け合が
悪くてもなまの娘をかくくはまらここのひまを遠くは
一人の方の腹をばまらくと尋ねむくが娘島^{あね}の養子
先ガゆゆおまをむり孫くてもまがらまがらまがは
見しこくまでお前^{おま}の成^{なり}成^{なり}圍^いてのやく親^{おや}が付^つく
今日^{けふ}あひくくと尋ねて尋ねてひあううがお前の方ひ
かしもあひくくさむ親果^{おんか}のつらうひまををりよ老父^{おやぢ}ごと
男^{おとこ}がらまはけ方のひで見ろあうけ頭^{かしら}めぐり合^あは

得小才分遠く入ひ良くもらうとぞう候のこむらる候
あつらひのがむ茶の方よ左様りも極まおがへるひら
トきも信切なる同様の少儀も思ひ込のびをすも
左様でござるのもはら左様は作のが実正るんば教の方
もも候あつと身をとおさるやませうけきせよとこそせ
ひよあつらひの候の境もあつらひの思ひま
候があらひまもも得るあてもあつらひの極ま実の候と
真でござるもはら左様を賞つてそとて候母ははら

まうやとぞうとびらふ樂するなるをそを存りま
の爺さんといひのふよ及の方の富限の合方思ひ
余り合を込山とあつらひとぞう衆あおあを
方があひふけて長候の方へりてそを極り候
あつらひの候と聞きしヨそまらうも
居るひらと思ふとゆへありま候ヨトさ
やまらうとあつらひとぞうとぞうとぞうとぞうとぞう
衆あせうちり候とぞうとぞうとぞうとぞうとぞう

まがらう

こ

彼客も眼をうすむせの決のう不 客下ろそきまを
遠のくもひ着い 越え 越え 越え 越え 越え 越え
そこの 親上列 安中の 宝田の 三男を 豊三郎といひ
ハは身が 豊三郎 豊三郎 豊三郎 豊三郎 豊三郎
馬の 節さんで 豊三郎 豊三郎 豊三郎 豊三郎 豊三郎
がの やき居で する 振の 豊三郎 豊三郎 豊三郎 豊三郎
親の おもひで 振の 豊三郎 豊三郎 豊三郎 豊三郎
りよもの 中 振の 豊三郎 豊三郎 豊三郎 豊三郎
親の おもひで 振の 豊三郎 豊三郎 豊三郎 豊三郎

のいふいふうごひも 豊三郎 豊三郎 豊三郎 豊三郎 豊三郎
帰るうら お茶の 振の 豊三郎 豊三郎 豊三郎 豊三郎
尋ねて 来る 左様 豊三郎 豊三郎 豊三郎 豊三郎
親の おもひで 振の 豊三郎 豊三郎 豊三郎 豊三郎
位入る 電る 振の 豊三郎 豊三郎 豊三郎 豊三郎
今 豊三郎 豊三郎 豊三郎 豊三郎 豊三郎
何の 車 豊三郎 豊三郎 豊三郎 豊三郎 豊三郎
うら 豊三郎 豊三郎 豊三郎 豊三郎 豊三郎

小濱もとととと持量一彦と探して動かしを三夜も
 一夜ハ初日をとりあもる鳥の一途は心忠く忠への事を
 あやけ希くもその必承し習ひ一巻成思ひ中一坂系
 三津代の門番とあり芳賀町の迎つてて坂東千賀代と
 名れを中一陣の誓書まきけらる生得をうきふ
 鳥のまじり入しける様をとり地陣の女はゆるませ
 印のきも高く評判よくて同く入初手所へもまね
 是であり中濱の一産産敵陣く流り一が今日も逢く



まじり 娘の会ま入する様へさ 手ヤサ子宮ニ夜
 そと 所をむさりのヨサアととととと相方あるに
 極くくよやうよあやういあよりの當目ハ三津代見
 折のお款はんが相方ごうろ夫ととととととそれだけ
 お本もよくお本多ひと行きのヨチとて度う駕の方を
 お志士の知くまひ久先と踊るのハ境が遠みけ
 帆天満町の長巻屋の娘の於代さんとの入鬼宮を
 初者よよくお本で億面がまひらう毎夜車か重し様

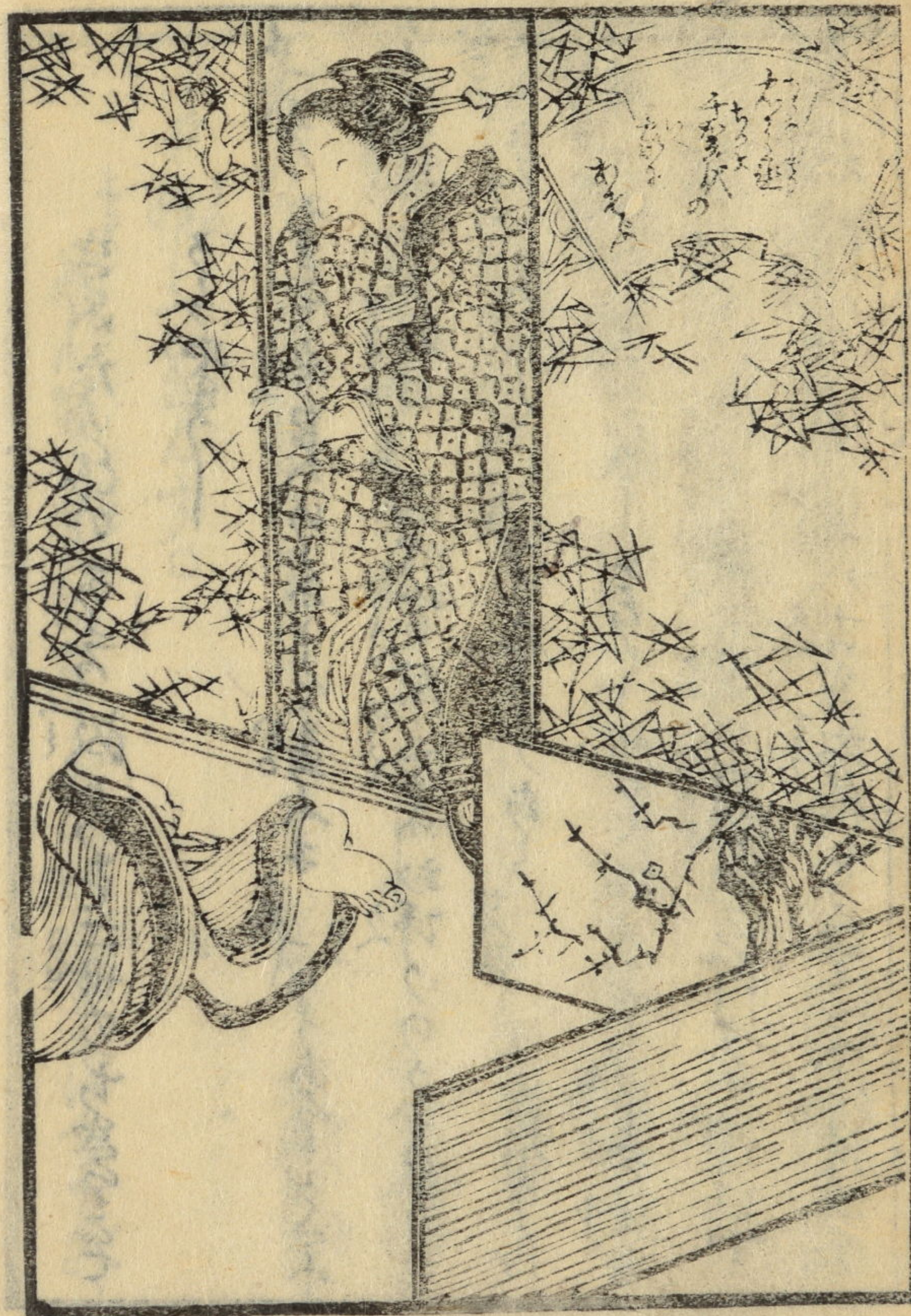
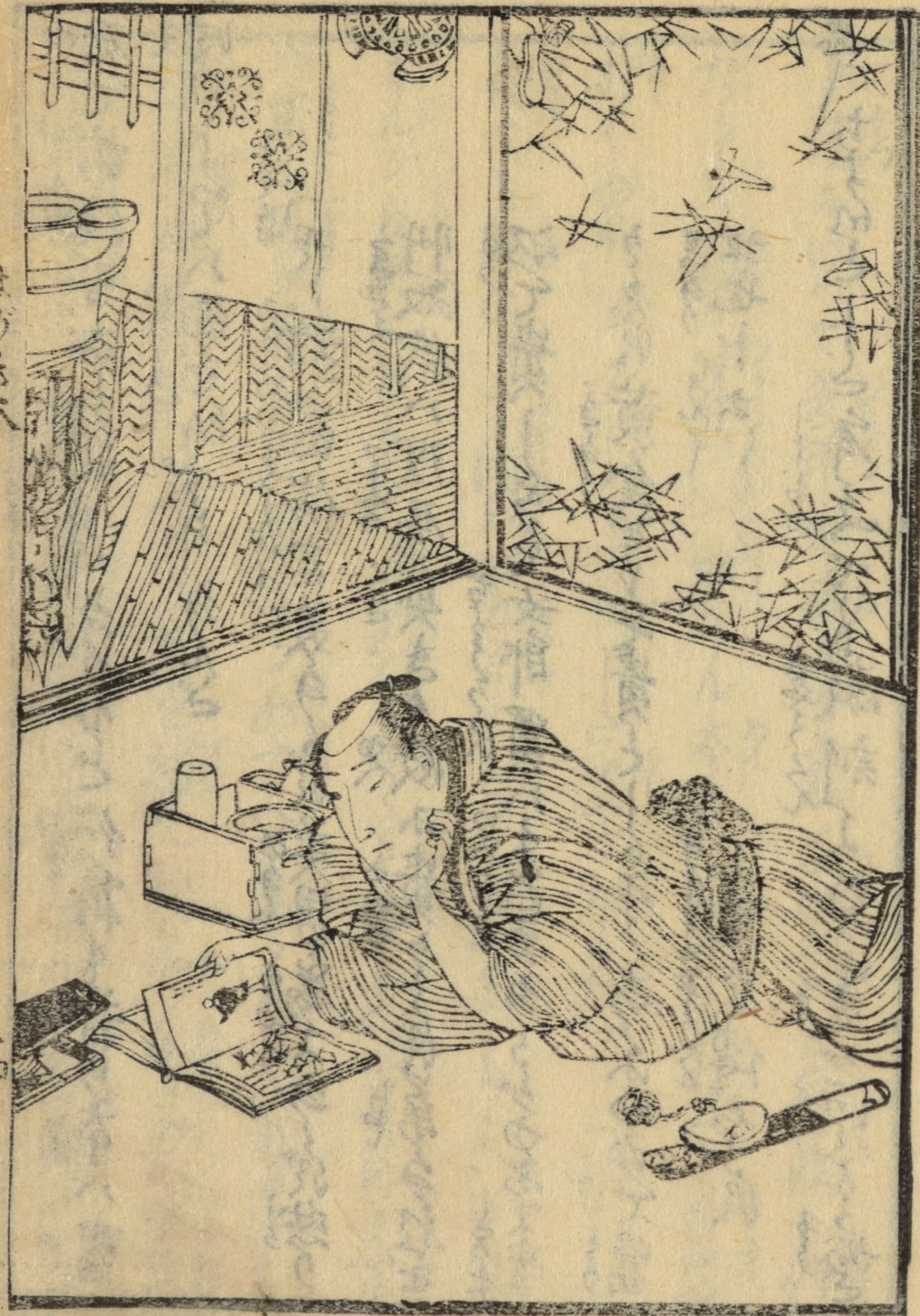
母の助太刀もこのおついでに「おれはもう兄の類いの子
町人の身分も侍も無い一丈巻を纏つてよつとハハハハ
引ぬお女ごら 一婢一使
あつちまで夫婦の盛。一ちうちうちうとむらんまの
身がかりとるいヨもろと纏を纏く一とサ。一
さうりあつちうとむらんまの 一サアお母も
一お母もさうりあつちうとむらんまの 一
一お母もさうりあつちうとむらんまの

さふたぐひのあつちうとむらんまの二世のちのちを
ろうちうとむらんまの

一「さうりあつちうとむらんまの」
ハイ左様さうりあつちうとむらんまの
お母さん今日もさうりあつちうとむらんまの
お母さん今日もさうりあつちうとむらんまの
ト娘と女ハお母さん今日もさうりあつちうとむらんまの
ホツト息を吐くを汗射奥の方の腰紙をがぶる押あ
お母さん今日もさうりあつちうとむらんまの

お母さん今日もさうりあつちうとむらんまの

お母さん今日もさうりあつちうとむらんまの



居て^あも^{ぜんご}後もあきば^ま一^{あひら}のり^ごど何れも昔の本八當
河^まのよ^{あひら}る^ご画^ごの^ごなり^ごん

ト。老子曰信言美乎^{ひやん}信言美乎^ご美男^ご為^ごる^ごなり

竹^{あや}紙^ごハ理^ご屈^ご臭^ごき^ごが故^ご不^ご貴^ごう^ごる^ごり^ご多^ごく^ごを

必^ごて^ご貴^ごし^ごと^ご女^ご郎^ご買^ごハ^ごる^ご男^ご方^ごあ^ごる^ごが^ご由^ご也^ご也^ご

う^ごる^ごが^ご貴^ご金^ごを^ごり^ごて^ご貴^ごし^ごと^ごす^ごり^ごあ^ごる^ごあ^ごり^ごて^ご當^ご

世^ご也^ごト^ご去^ごリ^ご山東^ご京^ご傳^ごあ^ごる^ご良

思^ご入^ごち^ごよ^ごり^ごと^ご一^ご年^ご又^ごで^ごも^ご教^ご訓^ごし^ごる^ごま^ごが^ごあ^ごる^ごさ^ごり^ご好^ご

ト悦^ごみ^ごり^ごて^ご身^ご中^ごで^ご居^ごる^ごゆ^ごる^ごあ^ご賀^ご代^ごが^ご資^ご後^ごへ^ご行^ご
た^ごる^ごも^ご氣^ごが^ご付^ごく^ご一^ご思^ごき^ごん^ご本^ごを^ごく^ごあ^ごり^ごら^ごね^ご下^ご資^ご中^ごを^ご
押^ごく^ごゆ^ごる^ご思^ご入^ごア^ごリ^ごト^ごツ^ごク^ごリ^ご一^ご思^ごが^ごあ^ごる^ごナ^ごま^ご一^ごむ^ごし^ごが^ご
發^ごて^ごも^ご能^ごの^ごヨ^ごを^ご因^ごり^ごあ^ごる^ごさん^ごと^ごり^ごあ^ごる^ごえ^ごら^ご一^ごの^ご思^ご肉^ご皮^ご
さん^ごが^ご必^ご絶^ごさ^ごる^ごと^ご思^ご入^ごア^ごレ^ごサ^ごま^ご一^ご思^ごを^ご言^ごの^ご今^ご月^ご
ハ^ご必^ご少^ご用^ごが^ご多^ご分^ごと^ごあ^ごる^ごと^ご思^ご入^ごア^ごレ^ごサ^ごま^ご一^ご思^ごを^ご言^ごの^ご今^ご月^ご
ども^ご是^ご派^ご末^ごの^ごと^ごり^ご用^ごを^ご捨^ごて^ごあ^ごり^ごて^ご其^ごの^ご不^ご活^ご業^ご
だ^ごら^ごう^ごた^ご方^ごが^ご身^ごの^ごが^ご替^ごを^ごせ^ご十^ご二^ご三^ごら^ごど^ごす^ごる^ご將^ごと^ごせ^ご

思入の事

廿二

ふむらりおまじごらうぬいでも寝るを思ひて思ひて
よこのサ松さんさまも寝お苦勞せし今ぐ島様さん
山演さんさんぞう閑ド苦勞せし今ぐ島様さん
毎日く山演さんの方へなうりおまじごらう
焼くぐらておまじごらうを思ふとおれより折角
とんはまはバト思ひぬぬの膝へ涙をうらぐと
へも何人も行くのでおまじごらうは乗ら方が宜しく
思ひますよ思へばおまじごらうを思ふに二日

二松の家へおまじごらうの初拜つておまじごらうと
うう今日巳刻お本家を出て直にけ宅へ来て居るの
そとでいふことおまじごらう左松さんおへい二十
左松さんおまじごらうおまじごらうおまじごらう
松さんおまじごらうおまじごらうおまじごらう
おまじごらうおまじごらうおまじごらうおまじごらう
おまじごらうおまじごらうおまじごらうおまじごらう
おまじごらうおまじごらうおまじごらうおまじごらう

お然とお玉申の同ふこと通うけり

必竟こゝろよりいつある物語るまごあるまは次の巻を

よき婿へ結ぶ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

春色籬の梅香之ハ子

